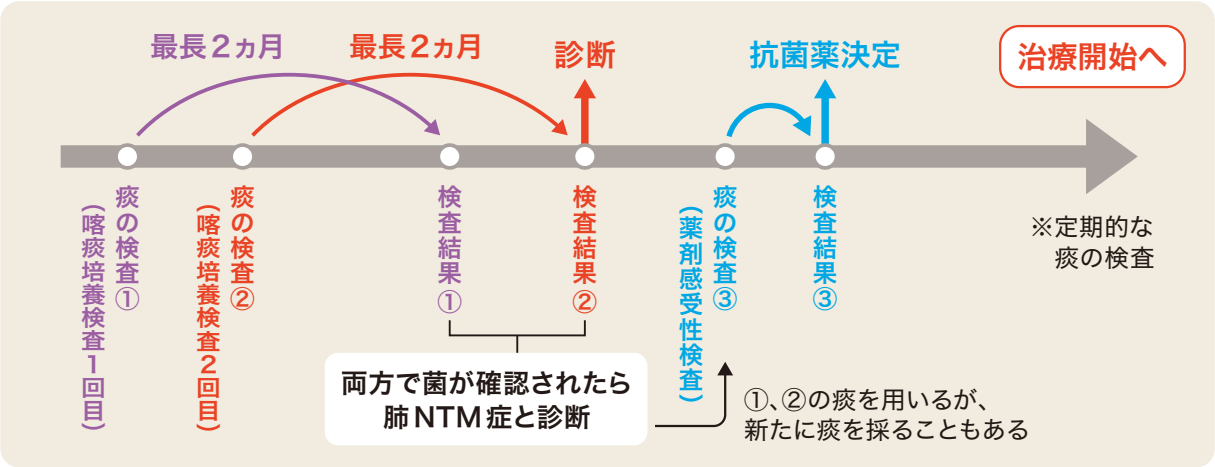
肺NTM症に関する検査のご案内

肺NTM症の診療には痰の検査が重要です

肺非結核性抗酸菌症（肺NTM症）の診療のため、痰を採取して調べることにより、肺の中の菌の存在を確認する「喀痰培養検査（かくたんばいようけんさ）」を行います。検査は複数回行い、2回以上菌が確認された場合に肺NTM症と診断されます。検査結果が出るまでには、痰を採る検査日から最長で2カ月かかります。ですから、診断がついて治療が始まるのは、2回目の検査日から2カ月後になることもあります。

また、痰から検出された菌に対して抗菌薬が効くかどうかを調べる「薬剤感受性検査（やくざいかんじゅせいけんさ）」も行います。検査結果をもとに、治療で使う抗菌薬を決めます。治療開始後も痰の検査は定期的に行われます。主な目的は、肺の中の菌の状況（存在や量）や、抗菌薬が有効かどうかを調べることです。



痰を採るときには以下のことを心がけましょう

- 起床してすぐ痰を採る（食事や歯磨きの前）
- 痰を採る前に水道水でうがいをしない（未開封のペットボトル水などでのうがいはOK）
- 痰はティッシュやラップではなく、専用の容器に直接出す
- 痰を採ったら冷蔵庫に保存して早めに病院に提出する（冷凍はしない）

肺NTM症を詳しく知りたい方へのお知らせ

一般の方や患者さん向けに肺NTM症を詳しく知るためのサイトをご用意しています。ご希望の方は以下にアクセスください。

肺NTM症講座URL https://insmed-ntm.jp/

痰を採るためのコツ

痰はあなたの肺の状態を伝えるメッセンジャーです

肺をレントゲンやCTで検査するだけでなく、痰の検査をすることにより肺NTM症の本当の状態がわかります。しかし、だ液だけでは検査できません。肺の状態を正しく把握し、最適な治療を受け、治療の効果を正しく評価するためにも、上手に痰を採るコツをつかみましょう。

- リラックスして深く息を吸い、強い咳とともに出た痰を専用の容器に直接入れる
- 痰が出にくいときには、無理をせずに深呼吸をしてから軽く咳払いをし、のどに絡まった痰を出すようにする（やりやすいリズムや姿勢で行う）
- 痰を柔らかくして出しやすくするため、少量の未開封のペットボトル水などを飲む（水道水は不可）

黄色だけでなく白色の痰でも検査できます

痰には、黄色や白色のドロッとした部分を含むものもあれば、さらさらしたものもあります。ドロッとした痰であれば検査の精度は上がりますが、喉の奥から咳と一緒に取れていれば、さらさらした痰でも検査が可能です。下の写真を参考にして、痰を採取してみてください。

あまり少ない量ではきちんと検査することが難しいので、最低1mLを目安にしましょう。

「山本剛：検査材料，抗酸菌検査ガイド2020（日本結核・非結核性抗酸菌症学会編），P.30, 2020, 南江堂」より許諾を得て転載．

※ ❶のような痰が検査には適しますが、❷のような痰や❸のように血の混じった痰でも、喉の奥から咳と一緒に出ていれば検査が可能です。写真を参考に喉の奥から痰を出す努力をしてください。

ご不明点がある場合は、主治医の先生にお問い合わせください。

監修：長谷川直樹氏（慶應義塾大学感染症学教室）　吉田志緒美氏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター臨床研究センター感染症研究部）

インスメッド合同会社 メディカルアフェアーズ（企画・制作）
東京都千代田区永田町2-10-3 東急キャピトルタワー13階

お問合せ **メディカルインフォメーションセンター**
電話：**0120-118808** 受付時間：9:00-17:30（土・日・祝日及び当社休業日を除く）

2024年4月改訂
MED-JP-00256
©2024 Insmed GK. All Rights Reserved.